

## 中朝経済関係の進展と動向

金 向 東

- 目次
- 問題視角
- I 北朝鮮の対外貿易
  - I-1 北朝鮮の貿易の変化
  - I-2 北朝鮮の貿易構造
- II 中朝貿易
  - II-1 中朝貿易の変化
  - II-2 貿易構造
- III 投資動向と特徴
- 小 括

キーワード：中朝貿易，貿易依存度，委託加工，資源開発，一次産品

### 問題視角

金正日総書記が2004年4月、中国を訪問した際、温家宝総理は「中国政府は朝鮮民主主義人民共和国（以下北朝鮮）と多様な形の互惠協力を積極的に奨励する」と言明した。これに続いて2006年1月10日から18日まで中国を非公式訪問した金総書記一行が、ハイテック企業、港湾施設、中国最初の経済特区—深圳など大部分が経済部門と関連した地域を訪問したことから、これを1992年鄧小平の南巡講和と比較するようになった。また、今回は2001年上海訪問時と違って主要閣僚も同行し<sup>1)</sup>、経済発展に力を入れる姿勢を内外に示しただけでなく、北朝鮮の経済開発に一層注目を浴びるようになった。日本人拉致問題、核ミサイル問題などで冷え込む日朝貿易ではあるが、その反面、中韓との経済連携も強めつつあるのも現状である。2004年中国と北朝鮮との貿易額は13億8,521万ドルに達し前年比35.4%増加した。中国との貿易は北朝鮮貿易総額の39%を占め、韓国と合わせれば北朝鮮対外貿易総額の6割を占めている。2005年の中朝貿易総額は前年比14.8%増の15億8,034万ドルに達し、前年の最高値を更新した。中国に次いで第2位の韓国の貿易額も10億5,575万ドルに達し前年比51.5%も増加した<sup>2)</sup>。つまり両国との貿易額が北朝鮮対外貿易総額の65%を占めている。2004年の北朝鮮に対する直接投資総額5,900万ドルのうち中国の投資は5,000万ドルに上り、全体の85%を占めている<sup>3)</sup>。また、2004年末現在北朝鮮に進出した外国企業は300社であり、そのうち120社が中国企業であり40%を占めている<sup>4)</sup>。

図1. 1987年北朝鮮の貿易相手国（百万ドル，%）

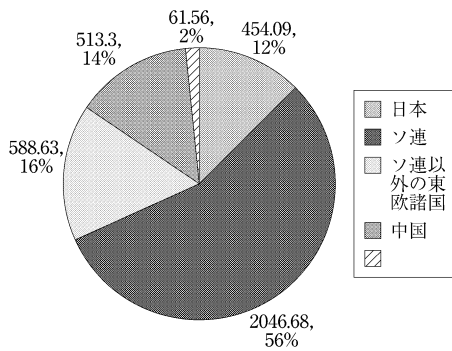
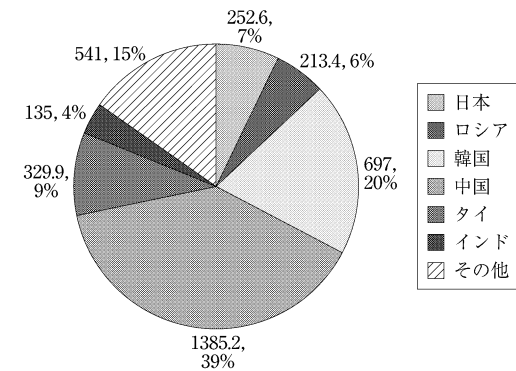


図2. 2004年北朝鮮の貿易相手国（百万ドル，%）



（出所） 図1は日本貿易振興会（JETRO）（1989）『北朝鮮の経済と貿易の展望』，48～51ページにより作成，図2には韓国貿易投資振興公社（KOTRA）（2005）『北朝鮮の対外貿易動向2004』により作成。

表1 北朝鮮の主要なマクロ経済の推移

項目 年度	名目 GNI(億ドル) (A)	経済成長率 (%)	人口 (千人)	一人当たり GNI(ドル)	貿易総額 (百万ドル) (B)	南北貿易 (百万ドル) (C)	貿易依存度 (B+C)/A	穀物生産量 (千トン)	原油導入量 (千バレル)
1990	231	-3.7	20,221	1,142	4,170	135	18.6	4,020	18,472
1991	229	-3.5	20,495	1,115	2,584	111	11.8	4,427	13,854
1992	211	-6.0	20,789	1,013	2,555	173	12.9	4,268	11,142
1993	205	-4.2	21,123	969	2,646	187	13.8	3,884	9,969
1994	212	-2.1	21,353	992	2,100	195	10.8	4,125	6,670
1995	223	-4.1	21,543	1,034	2,052	287	10.5	3,451	8,063
1996	214	-3.6	21,684	989	1,977	252	10.4	3,690	6,861
1997	177	-6.3	21,810	811	2,177	308	14	3,489	3,709
1998	126	-1.1	21,942	573	1,442	222	13.2	3,886	3,694
1999	158	6.2	22,082	714	1,480	333	11.5	4,222	2,325
2000	168	1.3	22,175	757	1,973	425	14.3	3,590	2,851
2001	157	3.7	22,253	706	2,270	403	17.0	3,946	4,244
2002	170	1.2	22,369	762	2,260	642	17.1	4,134	4,376
2003	184	1.8	22,522	818	2,391	724	16.9	4,253	4,207
2004	208	2.2	22,709	914	2,857	697	17.1	4,311	3,900
2005	—	—	—	—	3,005	1,055	—	—	—

（出所） 韓国銀行『北朝鮮のGDP推計結果』各年度，KOTRA（2005）『北朝鮮の対外貿易動向2004』，統一部（<http://www.unikorea.go.kr/index.jsp>），統計庁（Korea National Statistical Office）『南北韓経済社会比較統計』により作成。

（注） 貿易総額は韓国を除く。—はデータなし。

図1，図2が示すように，1987年の北朝鮮の最大の貿易相手国は旧ソ連であり，東欧諸国の貿易まで合わせれば，北朝鮮の貿易総額の72%を占めており，中国の比率14%であった。しかし，2004年になってそれが大きく逆転した。中国が北朝鮮の最大の貿易相手国に浮上し貿易総額の39%を占めるようになり，ロシアは6%に減少した。このように，北朝鮮経済対中国の依存度は

拡大している。中朝間の貿易拡大の背景には1990年代のソ連をはじめとする東欧社会主義諸国の崩壊<sup>5)</sup>、中国との地理的隣接性、中国の低価格の工業産品供給能力の拡大、政治紐帯の強化などであった。2005年の場合、中国の対北朝鮮資源開発投資の拡大は無煙炭・鉄鉱石貿易の増大に大きく貢献した。北朝鮮の貿易依存度は2割前後である（表1参照）。中国の2003年の貿易依存率は60%、2004年は70%であった。しかし北朝鮮は90年代に入り、工場稼働率は4割以下の状況の中で、貿易が拡大し、生産と流通の「閉鎖的経済体制」から「開放体制」へ向かわなければならぬ状況にある。そこで、本論は1990年から現在に至るまでの北朝鮮対中経済関係の現状と課題を探る。具体的には、まず、北朝鮮のマクロ経済と対外貿易の現状を述べ、次いで北朝鮮と中国の経済関係を概観する。第3は、北朝鮮と中国の経済関係の問題点と今後の課題を提示する。

## I 北朝鮮の対外貿易

### I-1 北朝鮮の貿易の変化

北朝鮮の対外貿易は二つの時期に区分する。一つは1990年から1998年までである。北朝鮮は90年代に入ってから9年連続マイナス成長となった。北朝鮮経済が90年代半ばに急激に落ち込んだ理由としては、社会主義圏の崩壊に伴うエネルギー輸入の激減、石炭生産の激減、外貨不足による資材・原材料の供給不足、95年の自然災害による穀物生産が激減、97年アジア経済危機などが挙げられる。この時期の経済不況が対外貿易の減少となった。北朝鮮対外貿易は1985～90年平均42.3億ドルに達した<sup>6)</sup>。表1からも分かるように、1990年の対外貿易総額は43億ドルであったものが、翌年の1991年（ソ連崩壊）に27億ドルまで落ち込んだ。

もう一つの時期は1999年から2004年までである。北朝鮮はようやく1999年からプラス成長に転換し、その後も、僅かながらプラス成長を維持している。対外貿易もこの時期に拡大している。2004年の対外貿易額は前年比14%増の35.5億ドルにまで達し、90年代に入って2003年の31.2億ドルの最高値を更新した。この時期の特徴としては中国との貿易が急激に増加した時期である。

中国は北朝鮮の最大貿易相手国として、2004年北朝鮮の対外貿易総額の39%を占めた。2004年の中国は北朝鮮へエネルギー資源、肉類を中心に輸出した。具体的に見ると、2003年の中国から北朝鮮へエネルギー資源（原油、製油、コークス）の輸出は1億8,072万ドルであり、2004年は前年比13.2%増の2億466万ドルに達した。2004年の食糧の輸出も増加しているが、肉類の輸出が目立つ（6,362万ドルから1億4,058万ドルへ増加、この内冷凍豚肉が96%を占める<sup>7)</sup>）。北朝鮮からは水産物及び、金属製品等を輸入している。具体的に見ると、2004年の魚介類の対中輸出は2億6,181万ドルに上り、2003年（2億693万ドル）比26.5%も増加した。同鉄鋼（第72類）は7,592万ドル、鉱石、スラグ及び灰（第26類）の対中輸出は6,011万ドルに達し、いずれも前年度を大きく上回った。北朝鮮の対外政策は欧米日への依存を行わない自立システムを採用しようと。従って、日本との貿易は相対的に大きく減少した。日朝貿易は2001年時点でも北朝鮮の対外貿易の17.8%を占め、中国に次いで第2位であった。それが2003年には北朝鮮の対外貿易の8.5%まで下がり、2004年に7.1%とタイ以下となり第4位になった（表2参照）。

近年の北朝鮮貿易は日朝関係の変化と国際社会の援助の減少と言う二つの重要な契機がある。

表2 北朝鮮主要貿易相手国との貿易推移

（単位：百万ドル、％）

区分	2000		2001		2002		2003		2004	
	貿易額	比重	貿易額	比重	貿易額	比重	貿易額	比重	貿易額	比重
中国	488.0	23.5	737.5	27.6	738.2	25.4	1,022.9	32.8	1,385.2	39.0
韓国	425.0	20.5	403.0	15.1	641	22.1	724.0	23.2	697	19.6
日本	463.7	22.3	474.7	17.8	369.5	12.7	265.3	8.5	252.6	7.1
ロシア	46.3	2.2	68.3	2.6	80.7	2.8	118.4	3.8	213.4	6.0
タイ	207.8	10.0	130.1	4.9	216.6	7.5	254.3	8.2	329.9	9.3
インド	172.2	8.3	157.8	5.9	191.3	6.6	158.4	5.1	135.0	3.8
その他	274.6	13.2	702.1	25.0	664.1	23.0	572.0	18.0	541.0	15.0
合計	2,077.6	100.0	2,673.5	100.0	2,901.4	100.0	3,115.3	100.0	3,554.1	100.0

（出所）韓国貿易投資振興公社（KOTRA）（2005）[2004年度北朝鮮貿易動向]

日本人拉致問題の激化が日朝関係の悪化に繋がり、両国の緊張関係の膠着化は日朝貿易の激減に繋がった。また、日本は武器に転用可能な戦略物資の輸出管理を強化し、入港船舶に対して検査を強化するなど北朝鮮に対し圧力を続けている。これにより北朝鮮の主要戦略輸出品の魚介類の輸出は中国、韓国に輸出するようになった。

2004年に入って北朝鮮とロシアの貿易は前年比80.3%増の2億1342万ドルに達し、インドを抜き北朝鮮の第4の貿易相手国に浮上した（表3参照）。北朝鮮は2002年以来、日本との関係悪化、核問題などで国際的支援が減少、通商・金融制裁の強化などにより、外貨及び必須物資の調達が困難になった。このような政治的不安定の中で北朝鮮は中国、ロシアなどとの貿易を拡大する一方で、タイとも緊密な関係を維持しながらエネルギー及び、食糧資源を調達し、繊維及び機械、電子製品など、対外貿易の拡大に努めた。具体的に見れば、2004年の北朝鮮対タイの輸出は主に電気機器およびその部品（第85類）が3,490万ドルであり、また2003年度は鉱物性燃料（第27類）の輸出実績がなかったが、2004年度には1,330万ドルまで膨らんだ。2004年のタイからの輸入としては、穀物が4,200万ドルであり、2003年（1,740万ドル）比141.4%増加した。これは国際社会の対北朝鮮の援助が減り、中国の穀物の価格が上昇したことにより、他の輸入先としてタイにシフトする事になったからである。北朝鮮は対外貿易の重要性を認識し、海外からの物資導入及び主要商品の輸出拡大に力を注いでいる。

### I-2 北朝鮮の貿易構造

輸出において、2004年の北朝鮮の輸出は10億2,020万ドルで前年比31.3%増加した。主要輸出品目としては、金額順にすれば水産物、卑金属類、鉱物性生産品、機械・電気電子、繊維製品、農産物、プラスチック、木製品、化学工業製品などである。水産物、卑金属類、鉱物性生産物の輸出比重は全体の64%を占め、一次産品を主として輸出している。

水産物、魚介類など動物性生産品の輸出は2000年の9,790万ドルで全体輸出の17.3%を占め、2004年には2000年の3.4倍にあたる3億3,658万ドルで、前年比でも17%増加し、全体輸出の33%

表3 北朝鮮10大貿易相手国

（単位：千ドル）

順位	国 家	北朝鮮輸出		北朝鮮の輸入		貿易合計		比重(%)	
		2003年	2004年	2003年	2004年	2003年	2004年	2003年	2004年
1	中 国	395,344	585,703	627,583	799,503	1,022,927	1,385,206	42.8	48.5
2	タ イ	50,706	90,803	203,611	239,088	254,317	329,891	10.6	11.5
3	日 本	173,818	163,372	91,500	89,262	265,318	252,634	11.1	8.8
4	ロ シ ア	2,792	7,177	115,575	206,240	118,367	213,417	4.9	7.5
5	イ ン ド	1,613	1,108	157,878	133,906	159,491	135,014	6.7	4.7
6	ド イ ツ	24,467	22,630	70,999	68,563	95,466	91,193	4	3.2
7	シンガポール	1,148	1,604	60,067	54,773	61,215	56,377	2.6	2
8	フ ラ ン ス	7,976	27,090	4,128	6,620	12,104	33,710	0.5	1.2
9	スウェーデン	397	244	6,133	28,384	6,530	28,628	0.3	1
10	ア メ リ カ	59	1,495	7,977	23,751	8,036	25,246	0.3	0.9
10大国合計		658,320	901,226	1,345,451	1,650,090	2,003,771	2,551,316	83.8	89.3
全体金額		776,992	1,020,200	1,614,382	1,836,911	2,391,374	2,857,111	100	100

（出所） KOTRA（2005）『2004年度北朝鮮対外貿易動向』より。

（注） 10大貿易相手国は2004年を基準、韓国を除く。

表4 北朝鮮の品目別輸出実績

（単位：千ドル，%）

区 分	2000		2001		2002		2003		2004	
	金 額	比重	金 額	比重	金 額	比重	金 額	比重	金 額	比重
動物性生産品	97,900	17.3	158,359	24.4	261,627	35.5	287,680	37.0	336,581	33.0
植物性生産品	30,301	5.4	42,029	6.5	28,461	3.9	24,528	3.2	27,542	2.7
鉱物性生産品	43,158	7.6	50,464	7.8	69,731	9.5	55,518	7.1	152,282	14.9
化学・プラスチック	44,929	7.9	44,600	6.9	43,067	5.8	31,154	4.0	38,750	3.8
木 製 品	10,941	1.9	5,596	0.9	10,153	1.4	15,163	2.0	16,044	1.6
織 維 類	140,044	24.8	140,530	21.6	123,003	16.7	133,121	17.1	114,948	11.3
貴 金 属 類	9,814	1.7	14,077	2.2	14,537	2	15,967	2.1	5,738	0.6
卑 金 属	43,869	7.8	60,245	9.3	58,285	7.9	89,657	11.5	164,268	16.1
機械・電気電子	105,247	18.6	97,914	15.1	83,884	11.4	93,112	12.0	121,726	11.9
そ の 他	39,572	7.0	36,394	5.6	43,510	5.9	31,092	4.0	42,321	4.1
合 計	565,775	100.0	650,208	100.0	736,258	100.0	776,992	100.0	1,020,200	100.0

（出所） 韓国貿易投資振興公社（KOTRA）『北朝鮮対外貿易動向』各年度版。（韓国は含まれていない）

を記録した（表4参照）。鉱物性生産品の輸出は前年比174.3%増の1億5228万ドルに上った。これは2004年に入って中国が深刻なエネルギー不足によるものである。ここで北朝鮮の対中無煙炭の輸出の単価が前年比51.2%上昇したため（2004年の1トンあたり31.3ドル、2003年は同20.7ドルである<sup>10)</sup>）、対中無煙炭輸出の増大に繋がった。卑金属類の輸出は前年比83.2%増の1億6,427万ドルを

表5 北朝鮮の品目別輸入実績

（単位：千ドル、％）

区 分	2000		2001		2002		2003		2004	
	金 額	比重	金 額	比重	金 額	比重	金 額	比重	金 額	比重
動物・植物性生産品	179,341	12.8	294,928	18.2	221,694	14.5	228,406	14.1	299,892	16.3
調製食料品	89,073	6.3	89,868	5.5	74,879	4.9	96,135	6.0	173,117	9.4
鉱物性生産品	171,202	12.2	231,100	14.3	235,803	15.5	337,952	20.9	409,550	22.3
化学工業製品	108,436	7.7	123,403	7.6	122,024	8.0	104,306	6.5	106,413	5.8
プラスチック	67,540	4.8	65,980	4.1	65,936	4.3	70,712	4.4	78,052	4.2
織 維 類	171,897	12.2	203,901	12.6	158,359	10.4	128,113	7.9	93,232	5.1
卑 金 属	85,188	6.1	100,355	6.2	88,137	5.8	172,659	10.7	128,364	7.0
機械・電気電子	205,051	14.6	243,826	15.0	234,574	15.4	282,356	17.5	262,911	14.3
車 両	146,185	10.4	88,427	5.5	76,000	5.0	61,809	3.8	77,254	4.2
そ の 他	182,617	13.0	178,503	11.0	246,727	16.2	131,935	8.2	208,126	11.3
合 計	1,406,530	100.0	1,620,291	100.0	1,524,133	100.0	1,614,383	100.0	1,836,911	100.0

（出所）韓国貿易投資振興公社（KOTRA）『北朝鮮対外貿易動向』各年度版。（韓国は含まない）

記録した。主な輸出国は中国（1億1,664万ドル）、日本（2,108万ドル）、タイ（900万ドル）、インドネシア（526万ドル）である。機械・電子電気の輸出は前年比30.7%増の1億2,173万ドルに達し、主力輸出品目として前年に引き続き増加傾向を見せた。主な輸出国は日本（1,879万ドル）、タイ（4,510万ドル）、フランス（2,265万ドル）である。対フランスの輸出は、2003年の25万ドルであったことが2004年には2,265万ドルへ急激に増加した<sup>11)</sup>。主な要因としては、自動処理機械部品、記憶装置などが大きく増えたからである。日本との関係は、悪化した貿易環境にもかかわらず機械類の対日輸出がむしろ増加した。その理由は、トランス及び、コンピューター関連部品の委託加工が前年より好転を見せたからである。

2000年の北朝鮮の輸入は14億653万ドルであったのが、2004年に18億3,691万ドルで2000年比30%増加し、対前年比でも13.8%増加した。主要輸入品目は鉱物性生産品、機械・電気電子製品、動物性生産品、調製食料品類、植物性生産品などで、繊維製品、卑金属、機械・電気電子を除いて全て増加傾向を見せている。鉱物性生産品が全体輸入の22.3%を占め4億955万ドルを記録し、前年比でも21.2%増加した。主要輸入相手国としては中国（1億8,308万ドル→2億826万ドル、13.8%増加）、ロシア（9,771万ドル→1億7,186万ドル、75.9%増加）がそれぞれ占めている。動物・植物性原料（16.3%）、機械類（14.3%）、食料品（7.6%）、卑金属（7%）の順である（表5参照）。2004年の動物性生産品の輸入は前年比47.8%増の1億5,945万ドルを記録した。そのうち92.6%を占める1億4,759万ドルに相当する豚肉を中国から輸入した。主な要因は、中国からの豚肉の輸入が急増したからである。その背景としては、2002年7・1経済管理措置実施以後、北朝鮮で豚肉の需要が急激に増え、しかも北朝鮮の豚肉生産が追いつかないため、隣接する中国からの輸入が増えたのであった<sup>12)</sup>。

## Ⅱ 中朝貿易

### Ⅱ－1 中朝貿易の変化

中朝貿易は2003年10億ドルを超えたのに続き、2005年には前年比14.8%増の15億8,034万ドルに上り史上最高値を更新した<sup>13)</sup>（表6参照）。北朝鮮は中国から10億ドルを超える石油・トウモロコシなどを含む商品を輸入し、中国には石炭・鉄鉱石を主に5億ドルに上る商品を輸出した。中朝貿易の拡大は地理的隣接性、中国の低価工業製品の供給能力拡大などに負ったことである。

2005年の場合、中国の対北朝鮮資源開発投資拡大による無煙炭・鉄鉱石貿易は大きく増えたのであった。輸出入実績をそれぞれ見れば、北朝鮮の対中国輸出は無煙炭・鉄鉱石の輸出が大きく増えた一方、魚介類の輸出が前年比14.3%減少し4億9,918万ドルを記録した。輸入は原油・石油・瀝青＝アスファルト（粗製品含み）、トウモロコシなどの輸入が大きく増え前年比36.0%増の10億8,118万ドルを記録した。

中国に引き続き北朝鮮の第2位貿易国といえる韓国の場合、2005年10億5,575万ドルで前年比51.5%増加し<sup>14)</sup>、日本は1億3,870万ドルで前年比22.9%減少した<sup>15)</sup>。

遼寧省社会科学院辺疆史地研究所所長・朝鮮韓国研究センター主任である呂超は北朝鮮の2005年食糧生産は過去10年最高水準に到達し、食糧難の問題は緩和する、とみている。呂超によれば、北朝鮮の毎年最低食糧の需要量は380万トンであり、超過部分を他の工業発展に回すという<sup>16)</sup>。北朝鮮からも2005年は農業に重点をおくという研究も既に出ている。キムスンテクは次のように述べている。「農業は工業と共に人民経済の2大部門の一つである。農業を発展させることは人民経済の自立性をより強化し経済の計画的均衡的な発展を保障し、我々の経済的威力をもっと高める事ができる。今日でも世界的に数千万人が深刻な食糧危機に直面している。また食糧生産が減少するため、国際市場でのコメ価格が急激に上昇している。このような状況の中で食糧問題を他国の援助で解決していくのは限界がある。食糧問題を解決する方法は、自国の穀物生産土台を強化し、それに沿って農業を営むことである。また全ての部門、全ての単位で積極的に支援すべきであり、農業に必要な肥料・農機械などをはじめとする営農物資と電気を適時の提供が不可欠である<sup>17)</sup>」。つまり、キムスンテクは農業の重要性を訴え、農業を発展させる為には全ての部門の支援が必要である、という認識を示した。

2006年に入って、中朝貿易が減少する傾向を持っているのも否定できない。三村光弘<sup>18)</sup>の丹東調査によれば、2005年の中朝貿易は上半期（1～6月）で約2億ドルを記録したが、2006年下旬現在で6000～7000万ドル程度に止まっている。その原因としては、北朝鮮に駐在していた海外の援助組織が20～30あったが、それらが撤退したためであるとしている。援助団体は年間1億ドル程度の物資を中国から買い付けていた。したがって2006の丹東ルートでの中朝貿易は前年より減少する可能性がある。

しかし2006年の上半期の中朝貿易総額は7億7,400万ドルで前年同期比4.7%増加した。中国海関統計資料によると、対北朝鮮輸出は5億8千万ドルで前年同期比13.5%増加した一方で、対北朝鮮輸入は2億ドルで14.6%減少した。品目別にみると、中国産鉱産物の対北朝鮮輸出が前年同

表6 北朝鮮と中国間貿易の推移 (単位：万ドル，%)

区 分	貿易総計	対中輸出	対中輸入	貿易収支	北朝鮮貿易に占める中国の割合
1990	48,274	12,458	35,816	-23,358	10.1
1991	61,045	8,567	52,478	-43,911	22.7
1992	69,657	15,546	54,111	-38,565	25.5
1993	89,963	29,729	60,234	-30,505	31.7
1994	62,372	19,922	42,450	-22,528	27.2
1995	54,965	6,361	48,604	-42,243	23.1
1996	56,565	6,864	49,701	-42,837	25.4
1997	65,629	12,161	53,468	-41,307	26.4
1998	41,302	5,731	35,571	-29,840	24.8
1999	37,041	4,171	32,870	-28,699	20.9
2000	48,801	3,721	45,080	-41,359	20.4
2001	73,984	16,674	57,310	-40,636	27.6
2002	73,823	27,069	46,754	-19,685	25.4
2003	102,309	39,534	62,774	-23,239	32.7
2004	138,516	58,566	79,950	-21,384	39.0
2005	158,024	49,914	108,110	-58,196	38.9
2006	170,015	46,777	123,237	-76,460	—

(出所) 『中国海関統計年鑑』各年度版、2006年のデータは『海関統計』2006年12月号、KOTRA  
『北朝鮮対外貿易動向』各年度版により作成。

期比31.1%増の1億8,798万ドルを記録し、ボイラ及び電機、音響など設備の輸出も前年同期比102%増の9,314万ドルであった。これに反して中国の北朝鮮産魚介輸入は1,473万ドルで前年同期比75%減少し、鉄鋼製品の輸入も前年同期比65%減少し、1,161万ドルに止まった。一方で、2006年上半期の中国の対北朝鮮食糧輸出は12万3千トン約2,500万ドルに達した。この内6割は国境貿易で実現し、3割弱は北朝鮮に無償援助によるものであり、2006年の中朝貿易は楽観的ではないが、やはり増える傾向にある<sup>20)</sup>。しかしいずれにしても中国は北朝鮮にとって最大の貿易相手国としての地位を替え得ることはない状況にある<sup>21)</sup>。

中朝貿易も二つの時期に区分する事ができる。1991年から1999年までの時期であり、これは北朝鮮の対外貿易の変動と同じパターンを見せている。つまり、93年の8億9,900万ドルを記録し、96年には若干増えたが、またアジア経済危機に会い、再び減少傾向に陥った(表6参照)。ようやく回復したのが2000年に入ってからである。中国は北朝鮮の対外貿易を主導している。2000年以後中朝貿易急増の帰趨は両国関係の改善、北朝鮮の鉱物などの1次産品に対する中国の需要の拡大などによるものである。

一方で、中朝貿易の増加は経済成長、市場経済の進展、物価安定などで北朝鮮経済に肯定的な影響を及ぼしている<sup>22)</sup>。中国からの輸入の大部分の物品は資材・原材料と資本財で構成されており、北朝鮮の生産活動に大きく寄与している。また、他国との貿易と違って、中朝貿易は北朝鮮の市



表7 北朝鮮の実際対中貿易赤字

（単位：百万ドル）

区分	年度	2000	2001	2002	2003	2004	2005
原油導入額		75.6	108.8	76.5	121	139.3	197.7
無償援助		27.6	69.1	16	10.9	14.6	38.1
合計		103.2	177.9	92.5	131.9	153.9	235.8
実際赤字額		-310	-226	-104	-100	-60	-351

（出所）イヨンフン（2006）「近年中朝経済関係の特徴と示唆点」『KDI北朝鮮経済レビュー』韓国開発研究院，3月。

場と直接隣接されており、市場経済の進展に大きな影響を及ぼしている。北朝鮮の供給不足を緩和し、北朝鮮の物価上昇を緩和している。

中朝貿易の場合、中国は大きな輸出超過となっている。北朝鮮の対中貿易赤字は1991年に4億3,911万ドルを記録し、その後は減少傾向を見せ、1996年は4億2,800万ドルに達したが、2005年には5億8,700万ドルに赤字が拡大した。北朝鮮は、この膨大な赤字を埋めることが出来たのは、中国の無償援助と借款である。イヨンフン（2006）によれば中朝貿易での原油の輸入は借款の形態で導入され、さらに、輸入の一部は無償援助の形態を取り、外貨を支払っていないという。これを考慮すれば、統計で現れている北朝鮮の対中貿易赤字より大きく縮小する。したがって中国からの援助および借款を考慮すれば、表7が示すように2005年でも3億5千万ドルに過ぎない。対中貿易赤字は貿易収支に現れたより小さいが、北朝鮮が対中貿易の赤字は大部分南北経済協力で稼いだ外貨で補填する事ができた。つまり、非商業性貿易を除いて、一般貿易、加工貿易、金剛山観光などで稼いだ外貨は2002年に3億4,296万ドル、2003年に4億868万ドル、2004年には韓国国内景気の沈滞と南北関係が閉塞状態になったことで前年比14.9%減ったものの3億4,780万ドルを記録した。2005年には南北の商業性貿易額は過去最高の6億8954万ドルに達し、南北貿易を主導する形になった。<sup>23)</sup>南北貿易は今まで18年経過して、南北相互の経済性や利益追求する実利主義的な傾向を見せている、と洪翼杓（2006）がいう。したがって南北の商業性貿易で稼いだ外貨で十分対中貿易赤字を賄うことができる。

## II-2 貿易構造

1999～2006年期間の中国の北朝鮮から輸入商品構造をHS2基準で分類すれば以下の通りである。第1に、2001年から2004年まで最大の比重を占めている輸入品目は魚介類である。魚介類は2001年から急激に増加し、2004年には北朝鮮からの輸入の44.6% 2億612万ドルに達し、中国の北朝鮮から輸入の最大の比重を占めるようになった。北朝鮮の水産物輸出の77.9%に（2003年では72%を占めている）相当する。しかし2005年からは鋼、スラグ及び石灰石の輸入が急激に増え、2006年には1億1,800万ドル強まで増え、北朝鮮からの輸入に占める割合は25.3%占めるようになり、魚介類は9.3%まで下がった。第2に、鉱物性燃料、鉄鋼、亜鉛・その生産品、木材などがその次になる。鉱物性燃料の大部分を占めている無煙炭の輸入は2005年に前年比120.6%（108.3百万ドル）増加し、鋼・スラグの輸入は同56.4%増加し92.3百万ドルに達した。これは中国の高度成長によるエネルギー及び鉱物資源に対する需要増加とともに、北朝鮮の炭鉱及び鉱山

表8 中国対北朝鮮の輸入上位品目

(単位:百万ドル)

HS	品 目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
26	鋼石, スラグ及び灰	1.1	2.6	6.4	8.5	15.0	60.1	92.3	118.4
27	鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物, 歴青物質並びに鉱物性ろう	2.3	3.4	4.3	11.3	17.3	53.1	112.2	102.5
62	衣類及び衣類附属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものは除く)	0.0	0.0	26.8	38.3	52.2	50.9	58.3	63.3
03	魚並びに甲殻類, 軟体動物及びその他の水棲無脊椎動物	5.8	4.0	48.0	143.0	206.3	261.8	92.4	43.3
72	鉄 鋼	9.7	8.7	23.7	27.9	46.8	75.4	72.6	35.3
44	木材とその製品並びに木炭	13.8	9.9	4.6	9.3	13.6	15.2	14.8	26.5
79	亜鉛及びその製品	0.2	0.1	0.2	0.4	13.5	34.6	11.4	9.2
12	採油用の種及び果実, 各種の種及び果実, 工業用又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物	1.2	0.9	2.2	10.0	7.8	6.8	6.9	4.5
	輸入総額	41.7	37.2	166.7	270.7	395.3	585.7	499.1	467.8

(出所) 「中国海関統計年鑑」各年度版, 2006年のデータは「海関統計」2006年12月号により作成。

表9 形態別北朝鮮の輸出

(単位:万ドル, %)

区 分	北 朝 鮮 の 輸 出										増加率
	2000		2001		2002		2003		2004		
	金額	比重	金額	比重	金額	比重	金額	比重	金額	比重	
一般貿易	91	2.5	972	5.8	884	3.3	2,088	5.3	7,500	12.8	259.2
辺境貿易	2,952	79.3	4,003	24.0	5,496	20.3	8,132	20.6	15,638	26.7	92.3
加工貿易	503	13.5	2,118	12.7	1,099	4.1	1,033	2.6	2,168	3.7	109.9
保稅輸出	135	3.6	9,486	56.9	19,190	70.8	27,827	70.4	32,112	54.8	15.4
無償援助	0	0.0	—	—	—	—	—	—	3	0.0	
その他	40	1.1	95	0.6	399	1.5	454	1.1	1,145	2.0	151.9
合 計	3,721	100.0	16,674	100.0	27,068	100.0	39,534	100.0	58,570	100.0	48.2

(出所) 韓国貿易投資振興公社(KOTRA)「北朝鮮対外貿易動向」各年度版。

に対する集中投資によっている(表8参照)。

表9が示したように2000年以降, 北朝鮮の対中輸出形態は主に<sup>24)</sup>辺境貿易と保稅貿易である。2001年に両者の合計は北朝鮮輸出総額の80.9%を占め1億3,500万ドルに達した。2003年は辺境貿易と保稅貿易での輸出額は3億6千万に達し対中輸出総額の91%に達した。辺境貿易の場合, 中国が辺境地域の経済活性化をはかるため実施した一時的政策として付加価値税と関税をそれぞれ50%減免する優遇措置である<sup>25)</sup>。したがって北朝鮮は辺境貿易を通じて中国へ輸出すると一般貿易より有利であるから, 大部分は辺境貿易を通じて輸出している。2000年の対中輸出の79.3%が

表10 中国対北朝鮮の輸出上位品目

（単位：百万ドル）

HS	品 目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
27	鉱物性燃料及び鉱物油並びにこれらの蒸留物、歴青物質並びに鉱物性ろう	79.5	117.9	161.8	118.4	180.7	204.7	285.7	347.5
02	肉及び食用のくず肉	1.3	1.4	6.7	10.4	63.6	140.6	104.2	111.8
85	電気機器、音声設備並びにこれらの部分品及び附属品	6.0	21.0	23.4	27.5	39.6	46.1	56.6	97.7
84	原子炉、ボイラ及び機械類並びにこれらの部分品	6.1	14.4	23.3	26.4	27.0	39.9	77.0	83.1
39	プラスチック及びその製品	0.9	17.3	23.3	25.1	24.6	32.4	52.1	52.0
72	鉄 鋼	14.6	22.7	22.1	20.8	20.7	39.7	35.1	27.6
11	穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉、イヌリン及び小麦グルテン	10.1	6.9	10.8	10.1	8.1	14.5	24.0	27.5
10	穀 物	43.7	34.0	62.6	29.9	49.9	15.4	50.3	16.9
	輸出総額	328.7	450.8	573.1	467.5	627.7	799.5	1,081.1	1,232.4

（出所）『中国海関統計年鑑』各年度版、2006年のデータは『海関統計』2006年12月号により作成。

辺境貿易を通じて行われた事から明らかである。しかし2001年から保税貿易が急激に増え前年度の70倍に相当する9,486万ドルに達し、対中輸出総額の56.9%を占めるようになった。2002年、2003年の保税輸出が対中輸出総額の70%まで増加した。2001年を契機に北朝鮮の対中輸出形態は辺境貿易から保税貿易へ転換した。2000年6月15日金大中大統領（当時）が北朝鮮を訪問した事が南北関係改善に繋がった。このことから魚介類のような一部北朝鮮産品に対する需要が増え、中国企業が北朝鮮から魚介類を輸入して韓国をはじめとする第三国へ輸出する中継貿易として開始されたからである。

2004年の北朝鮮対中輸出のうち保税貿易は3億2,112万ドルで、全体輸出額の5億8,570万ドル54.8%を占めている。これは輸出額において依然高い比重を占めているものの2003年度の70.4%と比べれば大幅の減少となる。その理由は、中国産品を北朝鮮産と偽って韓国に輸出する状況があったからである。韓国政府は北朝鮮産の製品を第3国経由で輸入する場合には事前承認を強化したのである。<sup>26)</sup>

1999～2006年期間の中国から北朝鮮へ輸出商品構造をHS2基準で分類すれば以下の通りである。第1に、鉱物性燃料は原油が大部分を占めている。2005年の原油輸出は前年比41.9%増加し、2006年は前年比21.6%増加した。これは輸出単価が44.3%上昇によるものであり、輸出量はむしろ減少した。第2に、肉類の輸出は2000年以後急激に増加した。2005年は前年比25.9%減の1億420万ドルまで減少したが2006年になっては前年比7.3%増の1億1千万ドル強まで回復した。今後も増える傾向を見せている。2005年の穀物の輸出は5,030万ドルであり、前年比228.8%増加したことになる。すなわち、減少分は穀物の輸出に充てたのである。第3に、輸出比重が大きいのは、電気機器、鉄鋼製品、機械類、車両及び、部品であり、ほとんどが生産財である（表10参照）。

北朝鮮の輸入は、輸出とは異なって一般の貿易が2000年以後60%強となっている。2004年には

表11 形態別北朝鮮の輸入

（単位：万ドル，％）

区 分	北 朝 鮮 の 輸 入										増加率
	2000		2001		2002		2003		2004		
	金額	比重	金額	比重	金額	比重	金額	比重	金額	比重	
一般貿易	27,723	61.5	34,704	60.6	30,031	64.3	43,127	68.7	56,624	70.8	31.3
辺境貿易	10,691	23.7	11,669	20.4	9,933	21.3	11,466	18.3	14,366	18.0	25.3
加工貿易	2,982	6.6	2,629	4.6	2,248	4.8	4,489	7.2	3,517	4.4	-21.7
保稅輸入	740	1.6	873	1.5	1,904	4.1	2,044	3.3	2,084	2.6	2
無償援助	2,756	6.1	6,913	12.1	1,597	3.4	1,089	1.7	1,456	1.7	33.7
そ の 他	191	0.4	526	0.9	1,018	2.2	544	0.9	1,903	1.8	250
合 計	45,083	100.0	57,314	100.0	46,731	100.0	62,758	100.0	79,950	100.0	27.4

（出所） 韓国貿易投資振興公社（KOTRA）『北朝鮮対外貿易動向』各年度版。

一般貿易が北朝鮮輸入総額の70.8%を占める5億6,624万ドルに達した。それに次いで辺境貿易は18%を占めている（表11参照）。つまり、北朝鮮の輸入形態は主に一般貿易と辺境貿易である。主な品目としては原油、食糧から生活用品まで主に一般貿易に依存している。その理由としては一般貿易であれ、辺境貿易であれ、輸出に対して中国は関税と付加価値税を課さないからである。また、北朝鮮の輸入計画による対中国物資調達是一般貿易の形態をとるからである。辺境貿易は一定水準を保っている。辺境貿易による対中輸入は国境地域の小規模の企業と貿易会社が北朝鮮と小規模の貿易を行う事で、決算上の限界により輸出と均衡を合わせながら維持しているのが実情である。

北朝鮮はますます対外貿易の重要性が増し、近年には加工貿易地域の設立を提起するようになった。ユツルナムによれば、「加工貿易地域では、地域を設立する国の資本も投入するが、基本的には外資の導入による産業地域を形成し国内企業と合弁、合作の形態で地域を運営する。もちろん、国内企業の投資を制限するものではないが、輸入原料と設備、技術導入で輸出を伸ばし自国経済を発展させることがこの地域の設立する目的である。一般的に外資を導入する国は外国資本比率を49パーセント以下に制限しているが、地域では100パーセント許可するだけでなく投資比率の高さによる特惠保証規定も違ってくる。加工貿易地域では労賃が相対的安く、自然地理的に有利な国と地域を設立するもので、地域は外国投資家たちの投資心理をもっと誘発させ、他の地域よりもっと多く投資家たちを受け入れなければならない。国全体を加工貿易地域に宣言したスリランカでは1992年現在134社の外国企業を誘致し、メキシコの加工貿易地域では1,465社の外国企業が入っている。加工貿易地域は市場価格、価格競争、契約による生産・販売など自由市場経済法則がそのまま作用する。結局加工貿易地域が発生発展から数十年間流れた今日、地域は基本的な顔つきを備え国内経済発展と対外経済関係の強化に成果を遂げている<sup>27)</sup>」というように、北朝鮮は加工貿易地帯の重要性を認識しており、経済発展のため開放が必要であるという見解を示している。

以上の分析から中朝貿易の特徴を以下の4点にまとめることができる。

第1に、北朝鮮は一次産品を輸出し、中国からはエネルギー、生産財、食糧を輸入するパターンである。

第2に、北朝鮮の中国への輸出形態として、主に辺境貿易と保税貿易があり、輸入においては、一般貿易と辺境貿易が主導している。

第3に、北朝鮮の貿易依存度は微増である。中国との貿易は増えているが、他国との貿易は減っているからである。

第4に、中朝貿易は、中国側の大幅の輸出超過である。

### Ⅲ 投資動向と特徴

1984年北朝鮮が「合営法」を制定して以来、中国の対北朝鮮投資件数は1995年まで3件であった。1999年末まで中国の対外貿易経済合作部（現商業部）で公式的に批准した中国の対北朝鮮投資企業は食堂、商店、水産養殖業など6社、投資累計額も188万ドルに過ぎなかった。<sup>28)</sup>しかし2004年になると中国の対北朝鮮投資契約額は1億7,350万ドルを記録し、2003年の130万ドルに比べ130倍に増加した。2005年、中国企業の対北朝鮮投資は13件、契約額は1億345万ドル、実際の投資額は5,369万ドルだった。今年上半期の中国企業の対北朝鮮投資は14件、契約額は8,643万ドル、中国側の実際の投資額は5,874万ドルであった。<sup>29)</sup>2004年2月中国は対北朝鮮投資諮問会社である「北京華麗経済文化交流有限公司」を設立した。これは北朝鮮観光総局の委任を受け、中国企業の対北朝鮮商業視察などの業務を主管する中国の民营企业で、中国企業を相手に多様な対北朝鮮投資誘致活動を行っている。2004年中国の黒竜江省、四川省、福建省などで相次いで「対北朝鮮投資説明会」を開催した。2004年11月18日遼寧省瀋陽市企業家協会が主催した「対北朝鮮投資説明会」では中国企業人500人が参加した。このように中国企業の対北朝鮮の投資意欲が高まっている事が分かる。投資特徴としては以下の4点を挙げる事ができる。

第1に、対北朝鮮投資は東北3省と南部地域が主導している。例えば、杭州の娃哈哈集団、山東省招金集団、吉林省紡績輸出入公社など比較的大企業が東北3省と南部地域に集中している、

第2に、資源開発投資に集中している。2005年10月吉林省の通化鉄鋼集団、延辺天池工貿公司、中鋼集団3社が今後50年間茂山鉦山開発権を取得する契約を北朝鮮と合意した。総投資額70億元で、このうち50億元は鉦山開発に投資し、20億元は吉林省通化と茂山を繋ぐ鉄道、道路など輸送施設の建設に使う計画である。<sup>30)</sup>「十一・五計画」末期まで通化鋼鉄集団の生産量を1千万トンまで増大する計画である。既に国家開発銀行から24億元の融資を受け前期投入に使うと伝えている。<sup>31)</sup>さらに両江道恵山銅鉦開発などにも投資を行っている。

漁業資源に対する合作投資も行っている。北朝鮮のサンミョン貿易総会社と北京総合化学貿易会社の間に漁業領域での協同協力契約を結んだ。この契約によると元山の近海を中国漁船に5年間開放し、入漁料として漁獲高の25%を電気製品などの現物を北朝鮮に渡す条件で中国の漁船の操業を許可した。<sup>32)</sup>

第3に、中国企業の投資は北朝鮮の経営権の獲得が目的でなく、補償貿易、合作投資形態が主である。中国企業の大部分の対北朝鮮投資が所有権をもって企業経営を参加するのではなく、投資

表12 中国対朝主な投資事例

	投資分野	投資規模	協議及び報道時期	備 考
1	発電所	2億ドル	2000年4月	広東華夏環境生態科学有限公司と北朝鮮の朝鮮経済開発総会社が「環境保護及び生態資源利用協議書」を採択、協約に沿って羅先に発電所建設促進。
2	ペイント	未詳	2000年7月	天津灯塔塗料股份有限公司と北朝鮮の平壤至誠明心合作会社が平壤で合作ペイント工場を設立することに合作調印式を開催。
3	ミネラルウォーター生産	494万ドル	2000年12月	中国側（友林経済貿易有限公司と北朝鮮側（朝鮮豆満江貿易会社）がそれぞれ49：51の比率で中朝合資会社である「七宝山合弁会社」設立
4	巻きタバコ	150万ドル	2002年3月	中国吉林省延吉巻きタバコ工場が単独で羅先新興タバコ会社設立。
5	コンピューター	130万ドル	2002年3月	南京熊猫電子集団有限公司、大同江計算機合弁会社と合作、晨曦熊猫計算機有限公司設立。
6	スレート	未詳	2003年11月	吉林省紡績輸出入会社と長春英超科学貿易有限公司が共同投資。規模、位置は不詳。
7	ガラス工場	2400万ドル	2004年3月	中国の対北朝鮮援助性格、平安南道大安郡に中国の輝華玻璃集団会社が建設。
8	トラクター	未詳	2004年7月	中国河南一拖集団、朝鮮金星トラクター工場間試行契約採択。
9	百貨店運営	5000万元	2004年8月	瀋陽中旭集団及び平壤第1百貨店。輸入関税5%、所得税5%を賦課する特恵。
10	黄金採掘及び精錬	未詳	2004年9月	招遠山東区に大黄金股份有限公司、朝鮮デギョンツ MOU 採択、北朝鮮のサンノンサン金鉱開発関連合作投資討議。
11	漁労		2004年9月	北朝鮮のサンミョン貿易総会社と北京総合化学貿易会社の間に漁業領域での協同協力契約を結んだ。この契約によると元山の近海を中国漁船に5年間開放し、入漁料という名目として漁獲高の25%を電気製品などの現物を北朝鮮に渡す共同協力契約を採択。
12	タバコ、衣類、貿易	2000万ドル	2004年11月	吉林省商務庁関係者によると省内対北朝鮮投資企業9社が総額2000万ドルを北朝鮮に投資したと言及。
13	運送	7億元	2004年11月	温州楽清盛金快速汽車服務有限公司、朝鮮ウルリム運送合衆会社と合作。
14	銅鉱開発	2.2億元	2005年1月	中国吉林省長白県、山東省招金集団が共同に長白招金銅業股份有限公司を設立、両江道恵山銅鉱開発。
15	消費財	未詳	2005年3月	中国の吉林糧油輸出入公司、平壤煙草紙製造工場が合作工場を設立、女性生理用ナプキン生産。
16	朝鮮 - 中国商品経営販売センター		2005年5月	瀋陽貿易促進会と朝鮮大成グループが共同で平壤に建設、販売商品の60%遼寧省商品。市場、倉庫、物流運輸など三つの部分になる。
17	百貨店運営		2005年8月	浙江省東陽国匯貿易会社が北朝鮮の最大百貨店である平壤第一百貨店内の三つの階の経営権取得。
18	羅津港開発	800億ウォン	2005年9月	羅津市人民委員会が中国の琿春市東林貿易公司及び、琿春中国側は国境経済協力地区保稅公司及50対50に資本金を出資し羅津国際物流合弁会社を設立、羅津港を50年間使用できる権利を獲得の代わりに北朝鮮内の道路建設、観光施設及び、工業団地の造成などに投資すると協議。
19	自転車	65万ドル	2005年10月7日	北朝鮮対外経済協力推進委員会と天津地吉特爾自転車貿易会社が共同出資（北朝鮮は土地などで49%出資、中国は51%出資）して平津自転車合弁会社を設立、20年間自転車生産独占権授与。
20	炭鉱開発	未詳	2005年10月	中国五鉱集団は平安北道に位置している竜炭炭鉱と合弁企業の設立に合意。
21	茂山鉱山	70億元	2005年11月14日	通化鋼鉄集団が北東アジアで最大級と言われている茂山鉱山を50年開発権獲得、「十一・五計画」末期まで通化鋼鉄集団の生産量を1千万トンまで上げる計画である。既に国家開発銀行から24億元の融資を受け前期投入に使うといわれている。
22	油田共同開発		2005年12月24日	中朝間エネルギー領域で緊密に協力し合い、黄海周辺で石油共同探査に合意。

（出所） KOTRA（2006）、11、16、17、21、22は各種報道により筆者が作成。

より主に補償貿易の形態を取っている。例えば、茂山鉦山の採掘権の獲得がそれである。補償貿易形態は投資した設備の代わりに生産品で補償を受けることで投資リスクが低く、産出周期が短く、相互に信用さえ守れば、中国の現状に合う投資形態といえる。

第4に、製造業に対する投資も行っている。中国吉林省延吉巻きタバコ工場が2002年に150万ドルを投じて単独で羅先新興タバコ会社を設立した。北朝鮮対外経済協力推進委員会と天津地吉特尔自転車貿易会社が共同出資（北朝鮮は土地などで49%出資、中国は51%出資）して平津自転車合弁会社を設立し、20年間自転車生産独占権を授与し、2005年10月7日に生産を開始した。

中国対朝投資の特徴はインフラ建設、エネルギー・原材料・鉦山開発を主であるが、同時に製造業とその他の分野にも規模は小さいが進出しつつある（表12参照）。中国の対北朝鮮投資分野も食品、電子、化学工業、医薬、軽工業、衣服、建築材料、鉦山、飼料、運輸など多くの分野に拡がりつつある。両国は経済技術、農業、人材養成などの面で交流と協力も安定的に推進している。<sup>33)</sup>

## 小 括

中朝経済関係の深化は多くの憶測を招いている。つまり、北朝鮮は中国の従属経済、或いは中国の東北第4省になるのではないかという心配が出ている。例えば、李庚・富田共和によれば、「中国の進出ラッシュと関連して、最近、『中国4省』という言葉が頻繁に聞こえてくる。中国では、南部や沿海部に比べて発展の遅れた遼寧・黒竜江・吉林の東北3省の開発が課題となっているが、その構想に北朝鮮を加えようとしているという観測だ。たとえば中国東北部には輸出基地となる大連しかない。そこで、東北部の資源や資材、製品を羅先から海外ないし中国南部などへ運ぶことに着目した格好だ。そのように北朝鮮を自らの経済圏に取り込み、更に地下資源などの供給地と位置付けることで、『北朝鮮を経済的植民地化する』（同筋）のが中国の狙いとの見方が支配している<sup>34)</sup>という。韓国の政府系シンクタンクの対外経済政策研究院の趙明哲研究グループでは肯定的面と否定的面を分けて分析を行った。肯定的面としては、第1に、北朝鮮と中国の経済関係緊密化は北朝鮮経済成長と所得増大に一定の肯定的な影響を与えている。第2に、中国は北朝鮮に必要なエネルギー、原材料のもっとも大きな供給国だから北朝鮮の工業生産及び、雇用の増加に決定的な役割を果たしている。第3に、北朝鮮に対する投資拡大は北朝鮮産業に対する開発及び技術移転効果をもたらし、これは長期的には経済成長に繋がることできる。第4に、中国に対北朝鮮貿易及び、援助の拡大は少なからず北朝鮮住民の生活難を解消する機能を果たす。第5に、中朝経済関係の密接化を適切に活用するならば、南北朝鮮経済統合あるいは、統一費用を減少させる可能性を提供する。

否定的面としては、第1に、北朝鮮が全面的な経済改革と対外開放をしていない状況のなかで、中国の対北朝鮮の援助と交流の拡大は北朝鮮として開発の必要性和至急性を認識させない結果になる可能性がある。第2に、北朝鮮の対中国依存度の深化は北朝鮮経済の長期的な安定性を損なう可能性がある。第3に、北朝鮮経済が過度に中国経済に依存すれば経済政策の自立性が保つことできない結果をもたらす。第4に、北朝鮮の産業開発であれ、技術開発であれ中国市場に親和的構造ができることにより、先進国型産業構造を導入する余地が小さくなる。第5に、北朝鮮

経済の対中国依存度の深化は将来朝鮮半島の統一経済構築において重大な問題を引き起こす可能性がある。第6に、北朝鮮経済の対中国依存度深化していく過程は、いわゆる北朝鮮の政治に対する中国の影響力が増大していく過程でもある。すなわち、韓国はこの肯定的面を最大限生かし、また否定的面は適切に対応する事により対中国依存度を南北経済協力の密接化を通じて克服する可能性を提示した。

小牧輝夫によれば、「中国が北朝鮮経済との関係を深めている背景には、政策的あるいは意図的な要素と自然発生的な要素の両方があると指摘したい。政策的な要素としては、第1に、中国は北朝鮮の体制が不安定化し、それが朝鮮半島の力学的な変動をもたらすことを最も恐れている。できれば北朝鮮が改革と開放を進めて政治的に安定し、朝鮮半島の平和が維持されることが最善である、ということであろう。そのためには、6カ国協議議長国の立場もあり、基本的な経済的下支えは続けるだろう。第2に、胡錦濤時代になって推進されている『東北振興』政策とのかかわりである。中国の東北3省、特に遼寧省や吉林省のうち朝鮮半島に隣接する地域では、その点で朝鮮半島との関係を無視できない。とりわけ、省の下の地方機関レベルでは、地域経済活性化のために、北朝鮮経済との関係拡大は政策目標になりうる。また、中央や地方機関の政策的意図や地理的な近隣関係のない、純粋に民間レベルでの対北朝鮮投資も増えている<sup>36)</sup>」という。すなわち、中国中央あるいは地方政府対北朝鮮意図的政策と民間による対北朝鮮の貿易、投資も同時に行われる、という見解を示している。

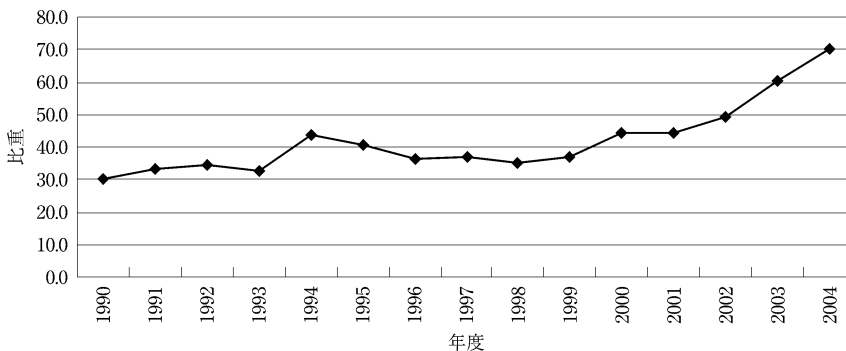
イヨンフンは北朝鮮と中国の経済関係に対して次のように述べている。「近年中朝貿易が大きく増加し、中国の対北朝鮮投資が本格的な兆しを見せている。これに対して韓国社会の一角では中国の意図的な政策の結果として憂慮する傾向があるが、中国の対北朝鮮貿易と投資は中国全体貿易と投資推移とほぼ類似しており、これは中国経済成長の自然的結果と見るべきである<sup>37)</sup>」としている。確かに中朝経済関係の深化は、北朝鮮が中国の従属経済になるのではないか、あるいは中国政府の意図的な政策ではないかという見方もあるが、たとえば中国が北朝鮮にエネルギー・食糧・原材料を供給しないならば、北朝鮮経済は崩壊寸前にあるといっても過言ではない。核・ミサイル・日本人拉致問題などにより、北朝鮮と経済関係を持っている国は限られる。また中国は北朝鮮の崩壊を臨んでいないのも周知の通りである。したがって、中国は北朝鮮に対して意図的な政策を取っているのではなく、むしろ民間企業に積極的な奨励政策を与え民間企業による貿易或いは投資が主であることに注目する必要がある。また北朝鮮と隣接する地理的有利な点もあり、民間企業は利益を追求して北朝鮮と経済交流を展開する事が現状である。しかし、また多くの問題点も存在しており、それは以下の5点を挙げる事ができる。

第一に、北朝鮮の対中国経済依存度は非常に高いとはいえ、量的及び質的には低いレベルに留まっている。

1992年初の鄧小平の南巡講話と同年10月の中国共産党第14回全国代表大会の決議は、中国の改革開放を全面展開という新段階に導いた。中国はまさにこの時期から対世界の依存度が高まった。図3で示したように2002年度の中国の貿易依存度は49.4%、2003年は60.4%、2004年は69.9%へと急速に拡大している。ベトナムの貿易依存度も2003年は130%も達している。これを考えると、北朝鮮の開放がいかにも不十分である事が分かる。また、北朝鮮は一次産品を主とする輸出構造は長期的には望ましくないものであり、いかに一次産品輸出から工業産品への輸出が実現するかが課

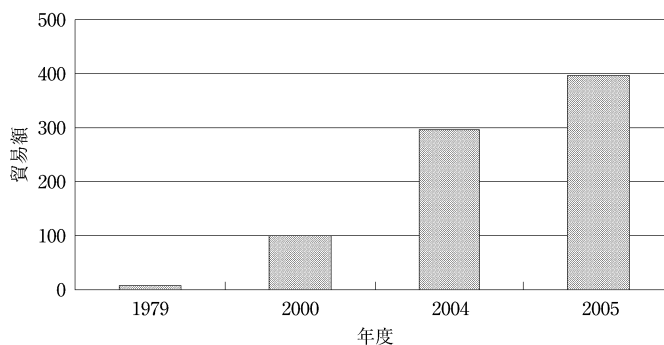


図3. 中国の貿易依存度（％）



（出所） 中華人民共和国国家統計局編（2005）『中国統計年鑑2005年』中国統計出版社。

図4. 中国アフリカ貿易（億ドル）



（出所） 人民網 (<http://world.people.com.cn/GB/14549/4970491.html>)。

題になる。

第二に、中朝貿易形態は多様であるが、この多様性を今後も発揮すべきある。また、早急に中朝琿春—羅先辺境経済合作区、中朝互市貿易区などの建設<sup>38)</sup>、稼動を急ぐべきである。

第三に、中国の対北朝鮮への投資が非常に低いレベルにあるので、これを増大する可能性の問題である。中国の対北朝鮮への投資は主に資源開発に力を入れている。例えば、中国延辺の天池工貿有限会社が2003年に北朝鮮の茂山鉍山に1億元の設備を投資し、その代わり北朝鮮から鉄鋼粉を輸入している。2003年100万トン、2005年110万トンの鉄鋼粉を中国の南坪税関を通じて輸入している<sup>39)</sup>。今後は資源開発だけでなくインフラ整備、製造業への投資を増やす事ができるか否かが課題である。

第四に、中国はもっと積極的な政策を打ち出す必要がある。例えば、関税の引き下げなどである。

中国とアフリカの貿易額は5年連続の急速な成長を達成し、2005年の貿易総額は1995年の10倍、前年同期比35%増の397.4億ドルに達した（図4参照）。2006年10月18日に中国の商務部のアジア・アフリカの司長の周亜濱は、2006年に中国とアフリカの貿易額は500億ドルを突破する見込みであるという。中国とアフリカの貿易が急速成長した背景としては、40カ国と「双方貿易協

定」を結び、28カ国と「双方奨励及び保障投資協定」を結ぶなど、法的整備を進めてきた。輸出品目でも日用百貨が主であったが、現在では電気機器、ハイテク産品が対アフリカ輸出の45%を占めている。投資面でも、2005年末現在までアフリカへの投資累計は62.7億ドルに達した<sup>40)</sup>。中国対アフリカの投資、貿易はかつてないスピードで急速に拡大している。中国は法的整備を進め、さらに民間企業に対する税制面あるいは、融資面への優遇措置などを積極的に打ち出した結果である。したがって、中朝貿易・中国対北朝鮮への投資を拡大するためには、民間企業に対しての融資、貿易の優遇政策をもっと積極的に打ち出す必要がある。

第五に、韓国、日本などの周辺諸国の政治的・経済的緊張関係の緩和のために、中朝韓三カ国の経済協力が必要である。

北朝鮮にとって中国、韓国はそれぞれ第1、第2の貿易相手国である。また中韓貿易は2005年に1120億ドルまで達し、中国にとって韓国は第3の貿易相手国であり、韓国にとって中国が第1の貿易相手国であることから、中・朝・韓3カ国がイニシアチブをとり、また地理的にも近い事を考えれば、3カ国の経済協力関係の形成は可能である。具体的な形態としては、資源の共同開発、インフラの建設である。

2006年10月9日北朝鮮が核実験した事により国連安全保障理事会の北朝鮮経済制裁決議を可決した。北朝鮮は外交関係を持っている国・地域は多数あるが、経済制裁は北朝鮮経済に及ぼす影響は大きい。したがって、今後の中朝経済関係はもっと深化していくだろう。もちろん北朝鮮の核・ミサイル問題、拉致問題の解決度合いに左右されるが、北朝鮮が核を放棄し拉致問題も解決する事により国際社会に復帰する事ができる。そうなると、北朝鮮は韓国、更には日本との経済関係が復活するだろう。松野周治が言うように、「現在、ASEAN+3（日本、中国、韓国）が中核的役割を果たす「東アジア共同体」が具体的目標として様々な場面で語られるようになり、2005年12月には第1回東アジア首脳会議が開催された。しかしながら、東アジアの協定の枠組みを長期的かつ安定的なものとするためには、朝鮮、ロシア、モンゴルを視野に入れた東北アジアに於ける協力と共同の発展が不可欠である。「ASEAN+3」（東アジア）の枠組みによる経済統合の基礎は拡大しつつあり、その実現の意義は小さくない。条件の存在する所での先行は当然であり、それを妨げるべき理由はもちろんないが、それだけでは、現存する地域間格差を更に拡大すると共に、より広い地域レベルでの社会安定（経済成長と発展にとって不可欠）を脅かす可能性がある。現在様々な制約によって発展可能性が十分に現実化されていない地域において、市場の諸力だけでなく、政府や社会の活動によって、発展の条件を整備することが重要である<sup>41)</sup>」という認識を示している。我々は制裁だけでなく対話も必要であり、北朝鮮を孤立させるのではなく国際社会へむしろ復帰させる条件を創ることが大事ではないか。北朝鮮経済は核・ミサイル、拉致問題の進展により大きく変わる可能性は秘めているものの、今後も中国経済が発展する限り、北朝鮮経済の回復が可能である。したがって関係各国が制裁を強めれば強めるほど対中依存関係は深化することになる。

#### 注

- 1) 姜錫柱外務省第1副長官と労働党秘書兼国防委員ゼンピョンホであると伝えられている。（連合ニュース2006年1月18日）

- 2) 韓国貿易協会2006年2月6日報道資料により (<http://www.kita.net/>)。
- 3) 『延日日報』2006年8月24日付け（朝鮮語版）、しかし一方、KOTRA北京貿易館の発表によると2004年北朝鮮の外資誘致額が4000万ドルに達したという。しかしこれは中国商務部の申告基準であるため、申告手続きを踏まない投資金額を合わせればもっと多いはずであると予想される。
- 4) KOTRA（2006）『北朝鮮の外資誘致現状と展望』。
- 5) 後藤富士男によれば、1990年代の北朝鮮経済の不振は①北朝鮮にとって最大の貿易・援助国であったソ連／ロシアからの輸入と援助が激減したことに端を発している、②次いで95年から食糧危機が発生した、③91年以降はロシアに代わって中国が北朝鮮の最大輸入・援助国となるが、その肝腎の対中輸入のうち特にエネルギー輸入が90年代半ば以降、大幅に減少したことが、90年代後半の北朝鮮経済に決定的なダメージを与えたとみられるという。後藤富士男（2003）「体制維持と改革のジレンマに直面する北朝鮮経済」『ロシア・東欧研究』第32号、92頁。
- 6) 統一部の推定値 (<http://www.unikorea.go.kr/index.jsp>)。
- 7) 『中国海関統計2005年』、1987頁から算出。
- 8) 同上、1989頁と1997～1998頁から算出。
- 9) KOTRA（2005）、54頁。
- 10) 『中国海関統計』2003、2004年により算出（単価＝輸入金額÷輸入数量）
- 11) KOTRA（2005）、19頁。
- 12) 連合ニュース2005年2月6日 (<http://www.yonhapnews.co.kr/>)。
- 13) 韓国貿易協会2006年2月6日報道資料により。
- 14) 南北貿易が急増したのは開城工業団地の本格建設やモデル団地の稼動による商業的取引の増加と共に金剛山観光施設の拡充や対北朝鮮支援増加などによるものである。しかし南北貿易は依然として韓国内外の情勢や南北関係の変化などに敏感に反応している。
- 15) このような背景には日朝関係悪化と国際社会の援助減少という二つの重要変数がある。日本人拉致問題が日朝関係の悪化の主な原因であり、両国間緊張関係の固着化が貿易の急減につながった。また日本は武器に転用可能な戦略物資の輸出管理を強化し、入港船舶に対する検査の強化など北朝鮮に対し圧力を続けている。これにより北朝鮮の主な輸出品である魚介類の輸出を中国・韓国などに転換され、委託加工の原資材の輸入及び、完成品の対日輸出も減少した。
- 16) 『延日日報』2006年8月24日付け（朝鮮語版）。
- 17) キムステンテック（2005）「農業前線は今年社会主義経済建設の主前線」『金日成総合大学学報—哲学・経済学』第51巻第4号、10月。
- 18) 三村光弘（2006）「縮小する中朝貿易と拡大する中朝の経済格差」『ERINA REPORT』Vol. 71, SEPTEMBER, PP. 39～40。
- 19) 『アリアンジャーナル』朝鮮語、2006年8月26日付け。
- 20) 2006年1—11月の中国と北朝鮮の貿易額は総額15億3600万ドルとなり、前年同期比で5.4%増えた。中国から北朝鮮への輸出が12.2%増の約11億1700万ドル、輸入が9.3%減の約4億1800万ドル。貿易額の内訳をみると、中国から北朝鮮への燃料・肥料輸出が3億3900万ドルに上り、前年同期比22.4%増えた。食糧輸出は4800万ドルと40.9%減となったが、輸出単価下落の影響が大きく、数量ベースでは増加しているという。（日本経済新聞2007年1月13日付け）
- 21) その最大の理由としては、中国の経済成長は続く限り北朝鮮に対する資源開発は続くだろうし、北朝鮮も中国から食糧、原資材など輸入も当分の間は続くからである。
- 22) 趙明哲グループの研究によれば、北朝鮮の対外貿易が1%増加すれば経済成長率は0.23%増加し、同一の条件下で一人当たり貿易規模が1%増加すれば所得は0.408%増加すると分析した。それによって計算すれば、2004年の北朝鮮の貿易は前年比19.5%増加したから、北朝鮮の経済成長率は4.485%増加する事になり、一人当たりの所得も7.96%増加すると推定した。（趙明哲・梁文秀・鄭勝鎬・朴淳讚（2005）『政策研究05-17—北朝鮮経済の対中国依存度深化と韓国の対応法案』対外経済政

- 策研究院, 136頁), イオンフンの研究では2000~2004年期間中朝貿易の増加は北朝鮮の経済成長率を毎年約3.5%増加させたという。このような推計結果は2000~2004年の間, 年平均経済成長率が2.1%増加する時, 中朝貿易が増加しなかったとすれば北朝鮮は1999年以降にもマイナス成長が続く可能性が大きいと分析した。(イオンフン(2006)『中朝貿易の現状と北朝鮮に及ぼす影響』韓国銀行, 31頁)
- 23) 洪翼杓(2006)「南北首脳会談以後の南北経済協力の評価および今後の課題」『ERINA REPORT』Vol. 71 SEPTEMBER, PP. 19~20。
- 24) 辺境貿易は辺境互市貿易と辺境少額貿易に区分され, 中国側の海関統計では辺境少額貿易だけ集計し, 辺境貿易というのは通常後者を指す。辺民互市貿易とは, 政府が国境線から20キロメートル以内で許可された開放地ならびに指定の市場において, 国境地区の辺民が一定金額あるいは数量範囲内で商品交換の活動を行うことを指す。辺民互市貿易は経貿部, 海関総署による統一管理方法を制定し, それぞれの辺境省, 自治区人民政府が具体的に組織し実施する。辺境少額貿易とは, 国家が批准した陸地国境線に沿った対外開放の辺境県, 辺境都市管轄区内(以下辺境地区と略す)で許可された辺境少額貿易経営権を有する企業が国家指定の陸地国境税関を通じて, 隣接する国家の辺境地区の企業或いはその他の貿易機構の間に行われる貿易活動を指す。(國務院関与辺境貿易有關問題的通知1996年1月13日)
- 25) 現在中国の平均関税率は12%, 平均付加価値税は17%程度で, 辺境貿易を通じた場合一般貿易より14%前後の原価節減効果があると見られる。
- 26) 南北間の貿易が無関税である点を悪用して中国産製品を北朝鮮産に偽る事例が増加しているという。(KOTRA(2002)『2001年度北朝鮮の対外貿易動向』)
- 27) ユツルナム(2001)「加工貿易携帯の自由経済貿易地帯の発生発展とその特徴」『経済研究』第1号, 科学百科辞典総合出版社平壤, 2月。
- 28) KOTRA(2006)『北朝鮮の外資誘致現状と展望』14頁。
- 29) 『黒龍江新聞』2006年9月28日付け。
- 30) 丹東向導(<http://www.dd-guide.com/tzcx2005/cxdd139.htm>)。
- 31) 吉林テレビ局『吉林ニュース』2005年11月14日。
- 32) 連合ニュース2004年9月7日。
- 33) 中国商務部ホームページ(<http://www.mofcom.gov.cn/>)。
- 34) 李庚・富田共和(2006)「北朝鮮情勢の現状と展望」『世界週報』第87巻第26号, 7月11日, 13頁。
- 35) 趙明哲・梁文秀・鄭勝鏞・朴淳讚(2005)『政策研究05-17—北朝鮮経済の対中国依存度深化と韓国の対応法案』対外経済政策研究院。
- 36) 小牧輝夫(2006)「中国への依存深める北朝鮮経済—生存維持に不可欠の関係に」『世界週報』第87巻第31号, 8月15-22日, 9頁。
- 37) イオンフン(2006)『中朝貿易の現状と北朝鮮に及ぼす影響』韓国銀行, 45頁。
- 38) 吉林省第十一次五カ年計画の中で北東アジア地域の国際技術合作を拡大し, 琿春市対外開放の窓口役割を十分發揮し, 図們江下流地域の改革開放を推進する。またロシア・日本・韓国・朝鮮・モンゴルなどと経済貿易, 科学技術, 原材料, 鉱産資源などの領域において積極的に協力と開発を推し進める。国際通路の建設を加速し, 中口琿春-哈桑, 中朝琿春-羅津先鋒跨国境経済合作区(国を跨る国境経済合作区)の建設を推進し, 対口「路・港・関」, 対朝「路・港・区」の一体化計画を推進させる。対口, 対朝の辺境貿易と互市貿易に力を一層入れ発展させる。さらに, 航空税関, 鉄道税関及び, 重点国境道路税関を企画建設するとともに, 通関環境を改善し, 通関能力を高める。大図們江地域と国際多角協力メカニズムを作り上げ, また, 地域性国際投資貿易と交流合作の台を作り上げる事にあると強調されている。
- 39) 筆者の現地ヒヤリングによる。
- 40) 人民網(<http://world.people.com.cn/GB/14549/4970491.html>)。

- 41) 松野周治・徐勝・夏剛編著（2006）『東北アジア共同体への道—現状と課題—』文真堂，5-6頁。
- 42) 金大中前大統領は，18日ソウル市内のホテルで開催された世界知識フォーラムで「北朝鮮は経済制裁による貧困に慣れており，外国の干渉に対する反発から住民を結束させ経済的な困難を乗り越える可能性がある」と指摘した。また，米ブッシュ政権が米朝対話を拒んできたことが米国の大きな失敗につながったと批判したうえで，「北朝鮮が，米朝対話を実現すれば朝鮮半島の非核化に積極的に協力する考えを示している。もう一度チャンスを与えるべきだ」と述べ，米朝対話を改めて促した。チャンスを与えたにもかかわらず北朝鮮が裏切るなら，6カ国協議の参加国など世界各国があらゆる手段を動員し北朝鮮制裁に乗り出すこともできると強調した。

金前大統領は演説後，フォーラムに出席したソロス・ファンド・マネジメントのソロス会長と会談し，北朝鮮の核問題について意見交換した。ソロス会長によると，米国でもチェイニー副大統領など対話は何の役にも立たないとするタカ派と国務省内のハト派が存在するが，次第に対話重視の流れに傾いているという。（連合ニュース2006年10月18日）

## Contemporary Issues in Chinese and North Korean Economy

### Abstract

As of the end of 2004, 300 foreign businesses have set up operations in North Korea, with 120, or 40%, of them Chinese. Thus, North Korea's level of financial dependence on China is steadily increasing. In the background of Chinese-North Korean trade expansion is their geographic proximity, the expansion of China's ability to provide cheap manufactured items, and the strengthening of political ties. For last year, this greatly contributed to the increase in coal and iron trade through further investment in North Korean resource development. This paper will examine the current status of North Korea's economic relationship with China from 1990 to the present, and at the end will forecast Chinese-North Korean economic relations.

**Keywords:** Chinese-North Korean trade, trade dependency, contract manufacturing, resource development, primary commodities